

セコムグループ2030年ビジョン



「社会システム産業」の構築を加速しているセコムは、2017年5月、2030年を一つのターゲットとして、今後のセコムの方向性をより明確に示した「セコムグループ2030年ビジョン」を公表しました。さらに2018年5月、2030年にめざす姿に到達するため、セコムが今何をすべきかを考えて、5年先を見据えた「セコムグループ ロードマップ2022」を策定しました。

「あんしんプラットフォーム」構想

「セコムグループ2030年ビジョン」では、「あんしんプラットフォーム」を通じたきめ細かく切れ目のない安心の提供をめざしています。「あんしんプラットフォーム」とは、これまでセコムが培ってきた社会とのつながりをベースに、「あらゆる不安のない社会」を実現したいというセコムと想いを共にする産・官・学などのパートナーが参加して、さまざまな技術や知識を持ち寄り、セコムとともに暮らしや社会に安心を提供する社会インフラのことで。

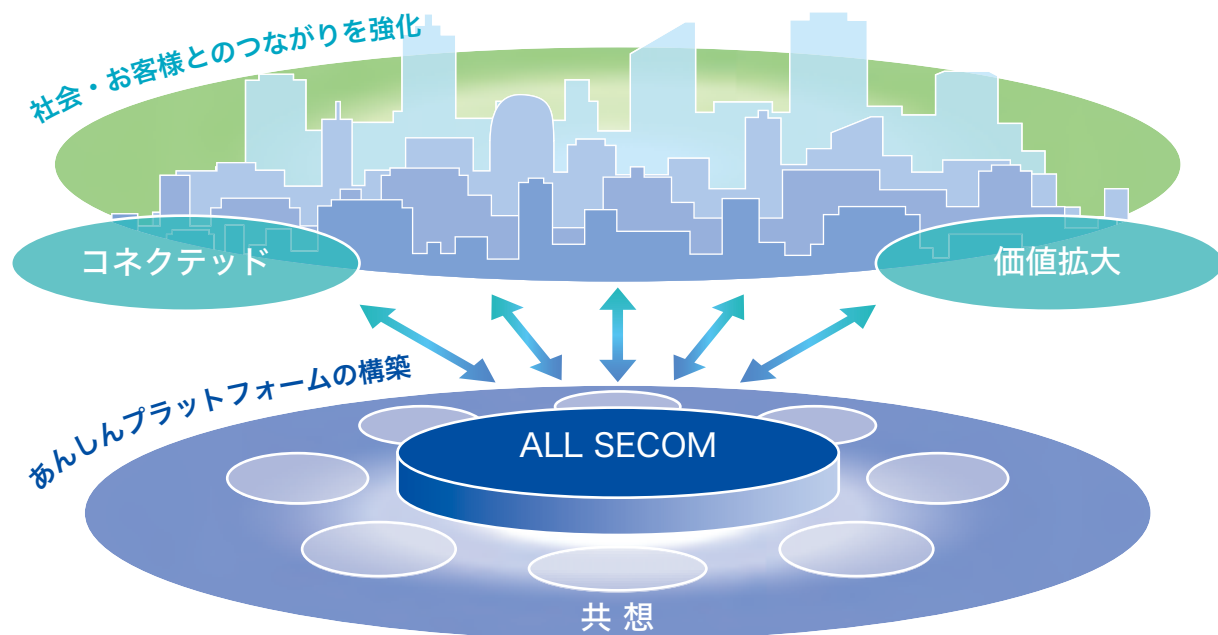
「あんしんプラットフォーム」を通して提供する安心には、「いつでも、どこでも、あんしん」や「誰にとっても、あんしん」、「切れ目

なく、ずっと、あんしん」といった3つの特徴があります。

普段は当たり前だと思いがちな“平穏無事な暮らし”は、「安全・安心」の上に成り立っています。すべての人々の日常生活において、「安全・安心」は必要不可欠なものです。事件・事故や災害、病気などの「まさか」は、いつやってくるのか分かりません。「まさかのときも大丈夫」と思えるようにしておくことが、“安心”につながります。それを実現するための根底にある概念が、「セコムあんしんフロー」です。

企業活動でも個人の生活でも、事件や災害など想定外の事態が起きると、日常

の流れが止まり、生産性が大幅に低下します。また、その被害が大きいほど、復旧までの時間も長くなります。「事件・事故」、「サイバー犯罪」、「自然災害」、「病気・老化」といったさまざまなリスクに対して、平時には「事前の備え」、有事には「事態の把握」と「被害の最小化」、そして「事後の復旧」の4つの要素を満たされていれば、人は安心して生活することができます。セコムは、この4つの要素を満たし、あらゆるリスクに対して切れ目のない安心を提供することを「セコムあんしんフロー」と呼び、サービスを進化させていきます。



「あんしんプラットフォーム」構想に向けた戦略

セコムは、「あんしんプラットフォーム」構想を実現するため、グループの総力を結集して相乗効果を生み出す“ALL SECOM”戦略と、セコムと想いを共にするパートナーが参画する“共想”戦略を、積極的に推進しています。

また、社会やお客様とのつながりを強化するため、最新の情報技術を活用したビッグデータ分析により、お客様の潜在ニーズに応じてつながりを増やしていく“コネクテッド”戦略や、日常のお困りごとに対するニーズに対して、安心を提供するサービスの付

加価値として、快適・便利なサービスを提供する“価値拡大”戦略を展開しています。

セコムは、この4つの戦略により、お客様の多様化する安心ニーズに応えるサービスやシステムの創出を加速していきます。

持続的成長に向けて「セコムグループ ロードマップ2022」を策定

「セコムグループ2030年ビジョン」に向けて邁進する中、セコムは「テクノロジーの進化」と「労働力人口の減少」を優先して取り組むべき課題として位置づけています。2つの課題は、企業や社会にとって適切に対処しなければ脅威になりうるものです。セコムはその解決策を求めるニーズを先取りし、大きなビジネスチャンスにつなげることで、社会の生産性向上にも大きく貢献していきます。

そのような状況において、最新テクノロジーを取り込んだシステム投資、人財から選ばれ続けるための人への投資といった基盤整備のための投資を、今まさにこのタイミングで集中的に行うことが「セコムグループ2030年ビジョン」に向けた成長を加速するうえで最良であると判断し、2018年5月、ステークホルダーの皆様とセコムの考えを共有すべく、「セコムグループ ロードマップ2022」を策定しました。このロードマップは、2030年のめざす姿に到達するために、我々は今何をすべきか、何を必要としているかを、バックキャストिंग*の思考で明らかにしたもので、2022年を「セ

コムグループ2030年ビジョン」実現の一里塚と位置づけています。

*バックキャストिंग・・・未来の目標時点から振り返って、現在すべきことを考える方法。

■「テクノロジーの進化」に伴う市場ニーズ

近年、テクノロジーの急速な進化に伴い、さまざまなものがインターネットにつながりはじめ、コネクテッドカーの実用化、ドローンやロボットの利用拡大、無人店舗やキャッシュレス社会の到来、スマートロックやAIスピーカーを装備したスマートホームの普及など、“つながる社会”に向かって大きく変わろうとしています。たとえ「テクノロジーの進化」により大きく社会が変化しても、「安全・安心」は社会に必要不可欠な要素であり、フィジカルとサイバーが融合した「つながる社会のセキュリティ」需要は、さらに高まると考えています。

■「労働力人口の減少」に伴う市場ニーズ

多くの企業では、ビジネスの省人化・無人化を推進するため、自社の競争力の

源泉である中核業務以外の非中核業務を外部に委託したいという「誰かに頼みたい」需要が、急速に高まっています。一方で、その委託先で万一の事態があった場合、中核業務にも悪影響を及ぼしかねないことから、「安全・安心」な引き受け先が求められています。

またご家庭では、「労働力人口の減少」に伴う少子高齢化や共働き家庭の増加などにより、子どもや高齢者の見守りニーズも高まっています。

セコムには、24時間稼働の高品質なセキュリティサービスの運用ノウハウ、最高水準の安全性で顧客の情報を預かるデータセンター、サイバーセキュリティやクラウドサービス提供で長年の実績があります。また、2017年10月、TMJをセコムグループの一員に加え、「安全・安心」なBPOサービスの提供基盤を拡充しました。セコムは、「誰かに頼みたい」需要を先取りして「安全・安心」なセコムならではのサービスを提供することで、社会の生産性向上に大きく寄与していきます。

■ 2つの優先課題に向けた自己変革 (SECOM-Transformation)

「テクノロジーの進化」や「労働力人口の減少」といった優先課題に取り組むセコムは、自己変革(SECOM-Transformation)として、「最新テクノロジーを味方につける取り組み」や「人財から選ばれ続けるための取り組み」に着手しています。「最新テクノロジーを味方につける取り組み」では、高まるニーズも見据えた次世代基幹システムの構築や機能改善のための投資を実施して、省人化や人の力の増幅による

サービス品質と生産性の向上を図ります。また、AI/IoT、RPA (Robotic Process Automation)といった業務の品質向上・効率化への投資や、テクノロジーの進化と労働力の減少に対応する新サービスや新商品の研究・開発にも投資します。

同時に、セコムは積極的な人員採用や働きやすい環境づくりなどの促進、モチベーションを高めるための各種研修内容の充実といった、自己実現を支援するための投資を計画しています。また、IT人財やグローバル人財など流動性の高い高度な

人財獲得のための基盤整備、業務効率化や生産性向上による成長分野への人財の再配置、ダイバーシティや高齢者雇用、在宅・短時間勤務などの多様な働き方の推進といった、競争力のある人財確保策を実施するため、積極的に資金投入します。このような「人財から選ばれ続けるための取り組み」によって、テクノロジーでは代替できない変化適応力や価値創造力に優れ、社会貢献意欲が高い人財の確保に努めていきます。

■ 持続的成長を続けるために

セコムは、社会と企業の持続的成長を重視しており、持続的成長に対する支出はコストではなく、長期的なビジネスの環境変化を事業に組み込んでいくための投資であると考えています。セコムが創業以来、サービスイノベーションに挑み続けて

いるのは、提供できるものを売るという発想ではなく、常に社会の持続的成長のために必要なものは何かという一歩先を見据えた発想からサービスを創り出していきたいという強い想いがあるからです。そのために最も大切にしているものが、人と技術です。セコムはこれら無形資産(見え

る資産)とそれを活用する能力を絶えず高める努力を続けていくことにより、競争優位を確立し、持続的な成長を続けていきます。

「セコムグループ ロードマップ2022」における戦略

■ 人事・組織戦略

市場環境の変化に対する社員の適応力・価値創造力の向上と、強靱で革新的な組織体制の強化による人財・組織の強化を推進します。また、業務の効率化・生産性の向上による成長分野への人財の集中投資を行うとともに、IT分野やグローバルビジネスなどに必要な高度な専門知識と経験を有する人財の採用・育成を強化します。さらに、シェアードサービスによる利益率改善と人財活用を推進し、企業理念の徹底によるリスク管理体制およびガバナンスが強化された隙のない組織を構築します。

■ 事業戦略

「あんしんプラットフォーム」構想の実現に向けて、「ALL SECOM」、「共想」、「コネクテッド」および「価値拡大」の4つの戦略に基づく取り組みを加速していきます。国内市場では、テクノロジーの進化による「つながる社会のセキュリティ」需要

に対して、立体セキュリティの進化やサイバーセキュリティ分野への積極的な進出、コネクテッドカーをはじめとする自動運転領域への進出、AI/IoTサービスとの連携などによるホームセキュリティの価値拡大を推進していきます。

労働力人口の減少による「誰かに頼みたい」需要に対しては、ドローンやロボットの活用、施設管理・ビル管理やサプライチェーン管理業務などへの提案力強化、無人店舗やキャッシュレス社会におけるサービス創出、ライフスタイルに応じたヘルスケアサービスの創出、見守りニーズに対する新サービスの提供などを推進していきます。

海外市場では、投資を生かしたマーケットの拡大に重点的に取り組みます。また、グローバル人財の獲得・育成に加えて、積極的な現地採用の実施、現地での教育や研修の充実といった人財戦略を実施します。サービス展開面では、既進出国においては、金融機関のアウトソーシ

ングニーズの獲得、工場・ビル建設やインフラ投資を捉えた統合システム(System Integration)事業の拡大、現地企業との協業による家庭市場への本格参入を図る一方、成長力のある未進出国への事業展開を推進します。

■ 資本戦略

今後5年間で総額2,000億円のM&A枠を設定し、国内外を問わず、フィジカルセキュリティ、サイバーセキュリティ、BPO・ICT、ヘルスケアの各分野、そして技術力の高いベンチャー企業を主な対象とし、自己資本を活用して投資していきます。配当性向は安定的かつ継続的な利益配分を行うこととし、ROEは一定水準を維持・向上していきます。加えて、持続的な成長と中長期的な企業価値向上のための経営方針を投資家の方々と共有し、建設的で質の高い対話の機会を強化・充実させ、投資家の方々との良好な関係の構築を促進します。

セコムグループ ロードマップ2022

ご参考までに、日本会計基準による2023年3月期の業績目標を以下に記載します。

連結売上高 1.1兆円 連結営業利益 1,550億円 ROE 8%超 配当性向 40%台前半を目安

(※新規M&Aの影響を含まず)

